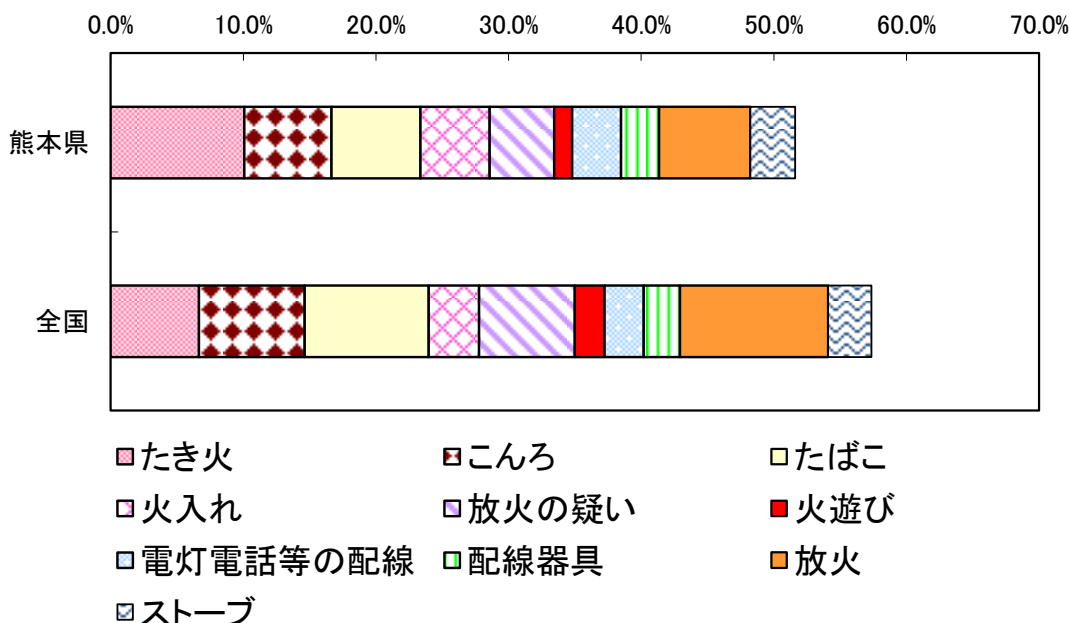


## 上位10位の出火原因別火災件数割合（平成26年）



### 解 説

#### 【概要】

平成26年に県内で発生した火災は、件数が595件、損害額は11億8470万円、死者数28人となっている。出火場所別では「建物」が339件、「車両」が74件、次いで「林野」の29件などとなっている。

火災件数595件を出火原因別に見てみると、最も多いのが「たき火」に起因する火災で60件、次いで「放火」に起因する火災が41件、そして「たばこ」に起因する火災40件と続いており、上位10位までの原因が全体の51.6%を占めている。

#### ○火災発生件数（出火件数）

すべての火災（建物、林野、車両、船舶、航空機、その他）の総件数をいう。うち建物火災とは、建物及びその収用物が焼損した火災件数をいう。

#### ○建物

土地に定着する工作物のうち屋根及び柱若しくは壁を有するもの、観覧のための工作物又は地下若しくは高架の工作物に設けられた事務所、店舗、興行場、倉庫、その他これらに類する施設をいう。

#### ○火災損害

火災によって受けた直接的な損害をいい、「焼き損害」、「消火損害」、「爆発損害」、「人的損害（死者及び負傷者）」に区分される。「焼き損害」とは火災によって焼けた物及び熱によって破損した物などの損害、「消火損害」とは消火活動によって受けた水損、破損、汚損などの損害、「爆発損害」とは爆発現象の破壊作用により受けた「焼き損害」、「消火損害」以外の損害をいう。消火のために要した経費、焼跡整理費、火災のための休業による損失等の間接的な損害は除く。また、損害額は、被災地における時価により算定し、「人的損害」は含まない。なお、建物損害額とは、これらのうち建物火災に関する「焼き損害」と「消火損害」を合わせた損害額。

#### ○消防ポンプ自動車等現有台数

消防本部・署、消防団所有の普通消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車、はしご付消防ポンプ自動車、小型動力ポンプなど消防自動車等の総数。

資料出所	調査期日	調査周期
*1,*2 消防庁資料	平成26年	毎年
*3「消防白書」 消防庁	平成26年	毎年
*4「消防年報」 消防庁	平成26年4月1日	毎年